

## 平成22年度第1回公立大学法人会津大学教育研究審議会議事概要

- 1 日時 平成22年4月1日（火）13：13～13：20
- 2 場所 会津大学管理棟3階 大会議室
- 3 出席者  
委員：角山学長（議長）、セドゥーキン委員、岡委員、佐川委員、程委員、  
ニキシコフ委員、太田委員、オア委員、宮崎委員、バーラ委員 計10名  
委員以外：岩瀬理事、事務局職員
- 4 議事録署名人 岡委員、セドゥーキン委員
- 5 議長の代行について  
公立大学法人会津大学教育研究審議会規程第4条第3項に定める議長の代行について、角山学長より、岡委員、セドゥーキン委員の順で指名があった。
- 6 議事
  - (1) 議題
    - A 第2条第4号委員の選任について  
まず、第4号委員3名の内訳について、角山学長より、1名は学生部長である兼本茂教授を選任し、残り2名を教員の中から選任したいとの提案があった。岡委員より、角山学長の案を示してほしいとの意見があり、他の委員から特に意見等がなかったため、角山学長の選任案について審議することとなった。  
角山学長より、杉山教授とロジスキー教授を選任したいとの提案があり、他の委員から特に意見等はなかった。  
その後、挙手により賛否が問われ、賛成多数により、学生部長の兼本教授、杉山教授、ロジスキー教授の3名を第4号委員に選任することが承認された。
    - B 第2条第5号委員の選任について  
角山学長より、1人は会津地域の高等学校の代表者として引き続き福島県立会津高等学校長の渡部裕一氏を選任し、もう1人は産業界からまた女性委員という観点から末廣酒造株式会社専務取締役の新城希子氏を引き続き選任したいとの提案があった。  
委員から特に質問等はなく、挙手により賛否が問われ、賛成多数により原案どおり承認された。

## 平成22年度第2回公立大学法人会津大学教育研究審議会議概要

- 1 日時 平成22年5月26日（水）15:00～16:20
- 2 場所 会津大学管理棟3階 大会議室
- 3 出席者  
委員：角山学長（議長）、セドゥーキン委員、岡委員、佐川委員、程委員、  
ニキシコフ委員、太田委員、宮崎委員、バーラ委員、兼本委員、杉山委員、  
ロジスキー委員、新城委員 計13名  
委員以外：岩瀬理事、事務局職員
- 4 議事録署名人 佐川委員、ニキシコフ委員
- 5 議事
  - (1) 議題
    - A 准教授から上級准教授への学内昇任の一部改正について  
事務局総務予算課長より、配布資料に基づき説明があった。  
委員（セドゥーキン委員）より、第3条第2項において、和文「又は」に対応する英文が「and/or」となっているが、「and」は削除すべきとの意見があり、そのように修正することとした。  
その他質問等はなく、挙手により賛否が問われ、賛成多数により原案どおり承認された。
  - (2) 報告事項
    - A 大学生の就業力育成事業について  
学生部長である兼本委員より、配布資料に基づき説明があった。以下の意見交換等が行われた。  
(意見等)
      - 「就業力」と「就職力」はどう違うのか。
        - ・「就業力」とは、就職に強いこととはもとより、就職してから活躍できる力という意味がある。「社会人基礎力」ということが要求されているが、そういうものが身につくような教育をしていきたい。
      - 最近のキーワードに「コーチング」という言葉があるが、この言葉をキーワードとして入れてはどうか。
      - 申請では「メンター」という言葉を使っているが、「メンター」は先輩の立場でより身近な関係で行い、「コーチ」はよりガイド的な立場で行うことである。申請内容を見て、私は「メンター」だと思ったが、言葉は慎重に定義した方がいい。
      - 両方あった方がいいと思う。
      - 1, 2年生から体系的にもっと力を付けていかないと間に合わないと思う。また、学生がボランティア活動を行うことにより、コミュニケーション能力が鍛えられ、現実の問題を把握できるようになる。ボランティア単位というものを認めたり、そのくらいのことをやらないと就業力はなかなかアップしないと思う。

○アルバイトで、例えばチームを組んで酒造りをするとか、漆器とか、そのようなモノづくりに関わっていてもいいのではないか。

○先日の教授会で、全く授業に出ない学生について問題になったが、人間性の形成ということからも、1年生からボランティアに参加されるということも非常に重要ではないかと思う。

## 6 その他

### A 会津大学の今後の取組みについて

角山学長より、配付資料により説明があった。

ローズハルマン工科大学からの留学生のレベルの高さについて意見交換が行われた。

### B カイストの状況について

岩瀬理事より、配布資料により説明があった。

## 平成22年度第3回公立大学法人会津大学教育研究審議会議事録

1日時 平成22年6月23日(水) 15:00~16:28

2場所 会津大学管理棟3階 大会議室

3出席者

委員：角山学長(議長)、セドゥーキン委員、岡委員、佐川委員、程委員、  
ニキシコフ委員、太田委員、宮崎委員、バーラ委員、兼本委員、杉山委員  
ロジスキー委員、渡部委員、新城委員 計14名

委員以外：岩瀬理事、事務局職員

4議事録署名人 程委員、バーラ委員

5議事

(1) 議題

A 平成21年度業務実績報告書について

事務局企画連携課長より、配付資料に基づき説明があった。

○「大学としての研究経過や研究成果の評価を行うためのデータの収集を行う。」項目がD評価であることに対して質疑応答があった。

- ・ データ収集の件数自体は十分なのでもっと高い評価でもよいのではないかと
- ・ データの収集件数だけでなく、その収集方法もコンピュータの大学として、もっと高いところを狙うため、D評価だと考えた。

○ 中期目標・中期計画に関する指標の「財務の改善に関する指標」の外部資金の定義について質疑が行われた。

- ・ 経済産業省からアジア人財への委託料や文部科学省からの補助金が含まれていないように思えるが、これは外部資金として取り扱っているのか
- ・ 外部資金は研究費以外を含んでも構わないが、会津大学の中期目標では平成16年から研究費のみを掲載している。  
アジア人財への資金は研究費としてではなく委託料として受けているため、中期目標での外部資金には含んでいない。(企画連携課長)
- ・ 研究費ではなく、委託料であっても大きな資金を外部から資金を受け取っているのに、外部資金として報告資料に掲載されないのは不足だと思う。欄外でいいので、どこかに載せてほしい。

○ 大学のホームページのリニューアルについて質疑応答があった。

- ・ 昔のページと新しくリニューアルしたページが2つ並立しており、どこを参照してよいか混乱するので、早急に一本化してもらいたい。

○ 大学院進学率の向上に対する考え方に関して質疑応答があった。

- ・ 大学院への進学率が低いことに対して、どのように考えているのか
- ・ 早めに大学院に進学する意欲を持ってもらうような新しい制度創設や、一年生に

大学院進学へのプロモーションをしている

- ・ 大学院への進学率を向上するため、研究に魅力を追及していくことが大切だと思う。

挙手により賛否が問われ、賛成多数により原案どおり承認された。

B 大学機関別認証評価自己評価書について

事務局企画連携課長より、配付資料に基づき説明があった。

質問等なく、挙手により賛否が問われ、賛成多数により原案どおり承認された。

(2) 報告事項

A 利益相反マネジメントポリシーの策定について

事務局企画連携課長より、配付資料に基づき説明があった。

(意見)

- ・ 利益相反の対象とする行為が報告する基準を満たしていないとき、又は報告するものが何もない場合であっても必ず教員から自己申告させた方が良いと思う。
- ・ 他大学で全ての教員から基準に満たないものまで申告させたことにより、事務が煩雑になったと聞いている。今回は最低限のものを作成したもので、今後不足があれば随時見直しを図っていきたい。

B 博士前期課程在学期間短縮申請手続きの一部改正について

兼本委員より、配付資料に基づき説明があった。

## 平成22年度第4回公立大学法人会津大学教育研究審議会議事録

1日時 平成22年7月28日(水) 15:00~15:04

2場所 会津大学管理棟3階 大会議室

3出席者

委員：角山学長(議長)、セドゥーキン委員、岡委員、佐川委員、程委員、  
ニキシコフ委員、太田委員、オア委員、宮崎委員、バーラ委員、兼本委員、  
杉山委員、ロジスキー委員 計13名

委員以外：岩瀬理事、事務局職員

4議事録署名人 太田委員、オア委員

5議事

(1) 議題

A 教員選考委員会の設置について(文化研究センター)

角山学長より、配付資料に基づき説明があった。

質問等はなく、挙手により賛否が問われ、賛成多数により原案どおり承認された。

## 平成22年度第5回公立大学法人会津大学教育研究審議会議事録

1日時 平成22年9月14日(火) 15:00~15:52

2場所 会津大学管理棟3階 大会議室

3出席者

委員：角山学長(議長)、岡委員、程委員、ニキシコフ委員、太田委員、オア委員、宮崎委員、兼本委員、ロジスキー委員、渡部委員、新城委員 計11名

委員以外：岩瀬理事、菅野理事、事務局職員

4議事録署名人 宮崎委員、ロジスキー委員

5議事

### (1) 議題

#### A 准教授から上級准教授への学内昇任について

配付資料に基づき、角山学長から説明があった後、投票が行われた。

投票の結果、候補者の上級准教授への昇任が承認された。

投票のあと程委員から、学内昇任にあたって評価された点を内部や外部へ公表したらどうかと提案があり、外部への公表は難しいが内部への公表は検討したいとの回答があった。

#### B 海外居住者を対象とした編入学試験について

配付資料に基づき、兼本委員から説明があった。

○委員からどのように日本語の能力を測定するのか質問があった。

委員から日本語インタビュー等により日本語能力は測定する予定であるが、ベトナムのハノイ工科大学については日本の大学へ編入している実績があることから、日本語のレベルは問題ないと思っているとの回答があった。

○委員から大学院だけでなく学部にも留学生をより受け入れる体制を作ったらどうかという提案があった。

これに対して、兼本委員から大学院は定員未満であるため留学生を多く受け入れる余地があるが、学部の学生は定員に達していることから、難しいとの回答があった。

### (2) 報告事項

#### A 平成23年度編入学試験結果について

配付資料に基づき兼本委員から説明があった。これに対して意見、質問等はなかった。

また、委員から会津大学の卒業生が雑誌プレジデントで卒業大学別年収ランクにおいて上位に位置付けられていることが報告された。

### 3 その他

#### A 中国大連・福島の産学共同IT人材育成モデル

配付資料に基づき岩瀬理事から説明があった。

これに対して委員から、グローバルに活躍するには英語が重要だが、日本企業で働いていくためには、ビジネスで使える日本語を話せること、特に会津大学の卒業生はIT技術者として技術的な日本語を話せることが必要である。このような人材育成を目的として、学部生及び研究科生へコンピューティングとITの日本語教育を行う教員をフルタイム(もしくはパートタイム)で語学研究センターに雇いたいとの意見があった。



## 平成22年度第6回公立大学法人会津大学教育研究審議会議事録

1 日時 平成22年10月27日(水) 15:00~15:35

2 場所 会津大学管理棟3階 大会議室

3 出席者

委員：角山学長（議長）、セドゥーキン委員、岡委員、程委員、佐川委員、ニキシコフ委員、太田委員、オア委員、宮崎委員、バーラ委員、杉山委員、ロジスキー委員 計12名

委員以外：岩瀬理事、菅野理事、事務局職員

4 議事録署名人 セドゥーキン委員、杉山委員

5 議事

(1) 議題

A 准教授から上級准教授への学内昇任について

配付資料に基づき、角山学長から説明があった後、投票が行われた。

投票の結果、候補者の上級准教授への昇任が承認された。

(2) 報告事項

A 大学生の就業力育成支援事業採択について

配付資料に基づき、菅野学生課長から説明があった。これに対して以下のとおり質疑、応答があった。

○ 本事業への学生の参加人数と対象とする学年を教えてください。

→ PBL (project-Based-learning) コースを受講する学生数を全体の70%とすることが目標である。現在2・3年生を対象としてキャリア教育を行っているが、今後はキャリアデザイン形成を目的とした授業を受けさせることで1年生にも参加させたい。

○ PBL に関して情報提供だが、経団連が学校のITスペシャリスト育成を目的として関連する組織を立ち上げ、学校に対して具体的なコンテンツを提供している。会津大学にも提供してもらえよう交渉中である。

○ 審査結果表の改善を要する点に外部評価委員の設置と記載があるが、経団連など産業界の方に委員になっていただき、その委員会で良い評価を受けられれば大学のPRにもなると思う。どのような方に委員になってもらうかの選定は重要だと思う。

→ 外部評価委員会については23年度から設置し外部の方にも入ってもらう予定である。

(3) その他

以下のとおり発言があった。

○ インターネットの無線環境について会津大学では整備が遅れており、大学評価委員からも指摘があった。整備のための予算の優先順位を高くしてほしい。

○ 一台のアクセスポイント設置にかかる費用は数千円で済むと思われるため、ハード的な問題というより運用上の問題だと思う。学内で無線によるアクセスができるかどうかを個人的に確かめたが、アクセスできたうちの半分程度がセキュリティに問題があり、誰でもアクセスできる状況であった。セキュリティポリシーを定めていくことが重要だと思う。

○ マクドナルドなどフリーでアクセスできる場所も多いが、何がセキュリティ上問題なのか

→ 現在の状況ではワイヤレスネットワークに誰でもアクセスでき、アクセスした人が特定できない。フリーでアクセスできる部分と運用上の設定をした上でアクセスできるセキュリティ保護がかかった部分に分ける必要があると思う。

## 平成22年度第7回公立大学法人会津大学教育研究審議会議事録

1日時 平成22年11月19日(金) 15:00~16:20

2場所 会津大学管理棟3階 大会議室

3出席者

委員：角山学長(議長)、セドゥーキン委員、岡委員、佐川委員、程委員、  
ニキシコフ委員、太田委員、宮崎委員、バーラ委員、兼本委員、杉山委員  
渡部委員、新城委員 計13名

委員以外：岩瀬理事、菅野理事、事務局職員

4議事録署名人 兼本委員、渡部委員

5議事

(1) 議題

A専任教員の選考について

コンピュータサイエンス部門の候補者1名について世話人である佐川委員から配付資料に基づき説明があった。

次に、コンピュータ工学部門の候補者4名について世話人である程委員から配付資料に基づき説明があった。

次に、情報システム学部門の候補者3名について世話人であるニキシコフ委員から配付資料に基づき説明があった。

その後委員による投票が行われ、候補者全員が出席委員の5分の3以上の賛成を得たため、計8名を選任することとなった。

B会津大学大学院履修規程の一部改正について

宮崎委員より配付資料に基づき説明があった。

委員から特に質問等はなく、挙手による賛否が問われ、賛成多数により原案どおり承認された。

C会津大学修学支援宿泊施設「創明寮」規程(案)について

菅野学生課長より、配付資料にも基づき説明があった。

これに対して次のとおり質疑・応答があった。

○ レジデントアシスタントの役割はどのようなものか。

→ これから制度を定めるが、大学院生を充てる予定で、各フロアに配置し、入居者の日常的な面倒や修学支援を行ってもらう予定である。

○ レジデントアシスタントはどのように選定するのか。

→ 学生支援委員会で選定する。

○ 目的にある「共同生活により社会性を身に付けさせる」という観点からは入居期間1年というのは短いのではないか。

→ 収用人数が80人と多くはなく、多くの学生に利用してもらうため、1年として

いる。

○ レジデントアシスタントの外国人と日本人の割合はどのようになるのか。

→ 外国人の私費留学生はほとんど入居できるので、結果として日本人学生にレジデントアシスタントを依頼することが多くなると思う。

○ 女子学生のフロアがあると思うが、それを管理するのは女性か。

→ そのとおりである。

挙手による賛否が問われ、賛成多数により原案どおり承認された。

## (2) 報告事項

A 平成23年度海外からの編入学者選抜試験結果について

兼本委員より、配付資料にも基づき説明があった。

これに対しては委員から質問・意見等はなかった

